

書評

こんなときどうする!? 整形外科術後リハビリテーションの すすめかた

山村 恵, 竹林庸雄(監), 三木貴弘(編),
渡邊勇太(編集協力)

B5判・520頁

定価：7,480円(本体6,800円+税10%)

医学書院, 2021年



整形外科術後リハビリテーションを ひもとく一冊

[評者] 荒木秀明 日本臨床徒手医学協会

「手術と術後リハビリテーションは一体であるべき」との北の大地、北海道の強い意志を感じとれる一冊です。

本書の構成は総論と各論に分かれています。総論では手術後リハビリテーションに必要な各種評価法、画像の読影法、麻酔の詳細、臨床検査の診かた、そして生物心理社会的因子としての心因性にまで及ぶ内容が網羅されています。各論では、各専門領域の第一線で活躍中のセラピストの先生方が、部位ごとの疾患の特徴と手術の内容、そして術後リハビリテーションを行う際に必要な基礎知識から実践までをわかりやすく解説しています。部位に特化せず、全身にわたって、整形外科で馴染み深い疾患を取り扱った書

籍は今まで、あまり目にしたことはありません。

本書の特徴は、表題にもなっている「こんなときどうする!?」です。

臨床で毎日行っていたカンファレンスで自分が頻繁にスタッフに投げかけていたことを懐かしく思い出しました。今回提示されている内容は、臨床経験を重ねた臨床家ならではの内容となっています。クリニカルパスを活用されている場合、パスから逸脱して、難渋する「ネガティブ・バリエーション」は日常的に生じます。そして、臨床で一度は必ず問いかけられる不安に満ちた患者さまからの質問、あるいは遭遇するであろうセラピストの悩みを、経験豊富なセラピストが手術前、手術後の急性期から、退院時の日常生活指導まで時系

列に沿って、豊富なフルカラーの写真を用いながら非常にわかりやすく解説してくれています。きっと、患者さまへの説明時に、活用できる内容だと確信します。

本文の端々にちりばめられた「臨床MEMO」においても、今さら聞けないような介護保険からバイオメカニクス、理学検査の診かた、手術方法に至るまで、普段の回診やカンファレンスで飛び交う「文言」をピンポイントで押さえてあり、ここでもわかりやすい説明が施されています。

整形外科の手術後リハビリテーションをひもとくために、ぜひとも手元に置いて、活用していただきたい一冊です。